シリーズ

あの機械 この技術

私の取扱説明書 11

中古農業機械の活用で適期作業を



北海道中富良野町

北川和也氏（44）

経営面積：58ha（水稲2.4ha、秋小麦15ha、春小麦5.3ha、ビール大麦1.5ha、タマネギ17.9ha、白タマネギ0.6ha、紫タマネギ4.5ha、エシャロット0.5ha、リーキ0.9a、ホワイトアスパラ0.8ha、グリーンアスパラ1.3ha、ニンジン1.7ha、チコリー 1ha、カボチャ 4.1ha、坊ちゃんカボチャ 1.8a、長イモ0.37ha、ゴボウ0.2ha、山ワサビ0.2ha、加工用トマト0.5ha）
構成員：従業員3名、海外実習生3名、季節雇用6名

天候条件に合わせて干ばつ時は灌水し、豪雨のあとは表面から排水するコントロールは、夏場の降水量が限られる中富良野で安定的に収量を確保するのに欠かせない技術だ。







1 バウアーのリールマシーン（370m仕様） タマネギ畑の干ばつ対策に重宝している１台。灌水装置のなかで唯一新品で入手した 2 山側の変形圃場でも活躍する小型のリールマシーン
3 平野部の圃場には集中管理の灌水装置が整備されている 4 地盤沈下により水が抜けなくなったエリアでは、レベラーをかけて水が流れる圃場をつくっている。一定勾配ではなく、圃場の凸凹を観察しながら水が流れるようにしてある。さらに表面から水を逃がすために畑の淵に明渠を掘り、排水技術には気を配っている



「北川さんは、モノを大事に使うからね」と仲間が評するのは、１９８０年代に主力だったトラクターをはじめ、年季の入った中古機械が現役で活躍しているためである。北海道中富良野町で畑作を営む北川和也氏は、農産物や加工品、種苗・資材を販売する㈲天心農場を経営するかたわら、転作田で農業を営んでいる。

所有する機械装備のうち新規に購入したのは、小型トラクター1台と直装式スプレイヤー（２０００ℓ仕様）１台、リールマシーン１台くらい。15台のトラクター、４ｔユニック車や乗用車、スプレイヤー、タマネギの移植機や収穫作業機、３台のリールマシーンを含む灌水装置はいずれも中古で手に入れたという。

現在の作付品目はニンジン、タマネギ、麦類のほか、冬場に出荷できる野菜類を含む19品目。これだけの多品目栽培を始めた大きな理由は、１年を通じて出荷し、現金収入を得るためだった。契約栽培を増やして農産加工も積極的に手掛けている。

天候を見ながら限られた人員で適



7 2台目の諸岡フルクローラ（S仕様）。GPSガイダンス（EZ-guide250）を搭載し、そこから車速を取り出してクロダ農機のコンピューターに接続し、車速連動の防除作業を行なう 8 杉山智省氏（音更町）が開発したコンパクトな薬剤洗浄キットを装着。重宝しているそうだ





5 タマネギの試験圃場では同じ品種で直播と苗立て移植とを比較し、将来に備えている。メーカーの品種の現地試験にも協力している 6 山寄りの畑ではカボチャをつくっているが、圃場は傾斜のある変形圃場が多い。土壌流出とカボチャが土の中に埋まるのを防ぐために定植後の中耕作業時に鉄パイプのカゴローラーで鎮圧してみたそうだ。歩いてみると、足跡が深くつかない







9 1台目の諸岡のフルクローラはサブソイラ専用機として活躍 10 クボタM5000もまだ戦力として稼働している 11 クボタM5950はダブルタイヤ仕様で使っている







12 薬品庫はきっちり閉まるJRコンテナの払い下げを利用 13 機械の格納庫、タマネギの選果作業場はビニールハウスで凌いでいる 14 アグリセムのコンビソイラとニューホランドのパワーハローでの播種床・移植床づくりには、110～120馬力トラクターが必要

期作業をしたいなら、トラクターは作業機ごとにそろえたい。それを格安の中古トラクターで叶えているのだ。欲しいと思っていた機械が見つかれば、遠隔地でも自ら引き取りに出向く。情報網とそのフットワークで格安に入手するところが北川さんの腕の見せ所なのだろう。

父、光夫氏は農協の営農指導部にいた経歴を持つ。イスラエルでの研修を通じて、水のない土地での野菜づくりのノウハウを学び、スプリンクラーを導入し灌水技術を活用した。そんな父の後ろ姿から、人と違うことをしても周囲の視線を気にしない。面積拡大に伴い泥炭圃場が増えていくなか、コントラクターのレーザーレベラーをフル活用して排水性を改善してきた。

主要作物のタマネギは10a当たり5t以上を確保し、今年のように道内の各産地で豊作が見込まれる場合に備えて、さらなる収量増と品質向上、経費削減を課題に挙げる。

山側の熊や鹿が出没するエリアでは灌水が困難な圃場も多い。「もっと勉強して、まともな農産物をつくらないといけないね」。資材や種苗の情報に加えて、農機を有効活用し、経費削減・天候への迅速対応の術を模索している。

（加藤祐子）